

13 回生 松尾大輔さん (佐賀市出身)



三桁飛行

弘学館中学校へ入学し、最初の2年間は100番以下の三桁飛行の成績が続いていました。当時は中高ともに男子校、その寮生活は猿山に住むが如し。一人っ子の温室育ちにはあまりに刺激が強く、大学受験の切迫感もない中、ただぼんやり、周りに振り回される日々でした。

ただ、振り回される中で、自分自身と向き合う時間が増え、「人は死ぬのになぜ生まれるのか」、「宇宙は有限か無限か」、「時間とは何か」など、自分なりに色々と思案を深めることができました。その結果、「まずは今、この時を存分に楽しもう」という結論に至り(色々と端折りましたが笑)、勉強や部活にも前向きに取り組めるようになりました。

大袈裟に言えば、この時に自分が生きる上での考え方の軸を持たせて、今現在に至るまで、その軸を尺度として様々な物事について主体的に考えることが出来るようになったように思います。

職場以外にヒントがある

私は今、国家公務員という職に就いています。日本全体を見据えた政策を検討、実現するのが仕事です。

しかし、「日本全体」という概念は漠然としていて、リアリティに乏しく、そこにのみ囚われると、机上の空論、いわゆる霞ヶ関の論理に偏った政策になりがちです。

このため、私は、仕事以外の付き合い、経験を大事にしています。政策は、最後には自分自身を含めた国民一人一人の日常生活に影響を及ぼすものであり、課題やヒントは、職場以外の日常生活にこそ転がっていると考えるからです。

右の「とある一日」は、定時退庁の流れで書いています。資料作成や国会対応で残業が深夜に及ぶこともありますが、可能な限り平日夜や土日に関心の高い自分のオリジナルの時間を作り、仕事以外の経験を積むことが、結果としていい政策、いい仕事につながると考えています。(誰かへの言い訳ではなく、本心です笑)

自分の頭で、考える。

- 1996年 4月 弘学館中学校入学
- 2002年 3月 弘学館高等学校卒業
- 2002年 4月 東京大学文科I類入学
- 2008年 3月 東京大学法学部卒業
- 2008年 4月 総務省入省
- 2008年 8月 石川県庁入庁
- 2010年 4月 内閣府(防災担当) 出向
- 2012年 4月 総務省復帰
- 2014年 4月 福井県庁入庁
- 2018年 4月 総務省復帰(現職)

(2019年3月現在)



職場のチームメンバーと

松尾大輔さんのとある一日

- 9:30 出勤
- 10:00 チーム打合せ
- 14:00 都道府県のヒアリング
- 16:00 会議資料作成
- 18:15 退庁

後輩へのメッセージ 大学受験は人生の役に立つのか、皆さん一度は考えると思います。その答えは人それぞれです。その中で私なりの答えは、生きる上で重要な「①目標設定、②現状分析、③手段選択」を学ぶことにあると思っています。テストの設問には決まった正解がありますが、大学受験には決まった解決方法があるわけではありません。努力は大事ですが、努力はベクトル、方向が違えばとんでもない結果に向かいます。自分がどうありたいのか、まず目標を明確にした上で、現状を分析し、現状と目標をどのようにしてつなげるか考える、大学受験も、人生も、同じではないかと思っています。